

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 11月 21日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201545		
法人名	有限会社 プロケア		
事業所名	グループホーム ゆうあい		
所在地	札幌市北区篠路2条7丁目6-30 (電 話) 011-776-5515		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北一条西5丁目3		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成21年1月6日

【情報提供票より】 (20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 10月 17日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	27 人 常勤 24人 非常勤 3人 常勤換 24.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3階建ての 1～3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000～60,000円	その他の経費(月額)	水光熱費 20,000円 暖房費 7,000円
敷 金	有 (円) ・ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (11月 20日現在)

利用者人数	26 名	男性 6 名	女性 20 名
要介護1	2 名	要介護2	9 名
要介護3	11 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.9 歳	最低 70 歳	最高 101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ことに共生クリニック、やしま内科消化器科クリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郊外のJR駅に近い便利な場所にあるホームである。1階は居宅サービス事業所を併設している。ホーム内はバリアフリーが行き届き、家庭的な装飾が施され、落ち着いた雰囲気となっている。介護計画は職員全員が話し合い、家族の意見も取り入れて作成されており、希望に沿ったサービスが提供されている。2週間に1度、提携医、提携歯科医の往診があるなど、健康管理に力を入れ、特に口腔ケアは日々の手入れも支援している。ホームの行事やユニット毎の行事が充実し、楽しみごとが多い施設である。家族にも頻繁にアンケートを行ない、その結果をフィードバックするなど、家族の希望が反映されるよう努力されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 地域密着型サービスとしての理念は、従来の理念に「地域との親しみ、交流、地域生活」を加えて作りあげている。家族への報告は、ホームだよりを郵送し情報提供している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員が全員で話し合って作成しているが、できているか否かの判断に迷う項目があるなど、取り組むべき項目の優先順位が決められず、具体的な取り組みに至っていない課題もみられるため、ガイドブックを活用され、項目に優先順位をつけ、ユニット毎、具体的に取組まれることが期待される。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヵ月に1回のペースで運営推進会議を開催し、包括支援センターや地域代表者、家族などが参加し、運営に関する意見をいただいている。外部評価の結果についても運営推進会議で報告している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 日常の来訪時のほか、ケアプラン作成時、運営推進会議にて家族に報告・説明を行ない意見をいただいている。玄関先に意見箱を設置したり、家族アンケートを頻繁に実施し、アンケート結果も家族に報告している。重要事項説明書に第三者の苦情処理機関を明示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの代表者が町内会の役員を務め、ホームの行事などを地域に積極的に伝えている。日常のほか、年に一度のホームのお祭りに地域の方をお招きし、交流を図っている。囲碁や楽器演奏のボランティアの方にもホームに来ていただいている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「入居者と家族の尊厳の尊重」と「地域との親しみ、交流、地域生活」を掲げている。理念は職員が話し合って独自で決めたものである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各ユニットの見やすい箇所に掲示されている。利用者や家族の尊厳を尊重することを、日々心がけた介護サービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの代表者が町内会の役員を務め、ホームの行事などを地域に積極的に伝えている。日常のほか、年に一度のホームのお祭りに地域の方をお招きし、交流を図っている。囲碁や楽器演奏のボランティアの方にもホームに来ていただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員が全員で話し合って作成しているが、できているか否かの判断に迷う項目があるなど、取り組むべき項目の優先順位が決められず、具体的な取り組みに至っていない課題もみられる。	○	評価項目の理解にガイドブックを活用されるのが望ましい。また改善項目に優先順位をつけ、ユニット毎に具体的に取り組まれることを期待する。

札幌市北区 グループホームゆうあい

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回のペースで運営推進会議を開催し、包括支援センターや地域代表者、家族などが参加し、運営に関する意見をいただいている。外部評価の結果についても運営推進会議で報告している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム管理者会議に参加し、市の担当者と情報交換ができる体制となっている。また市の指導に基づき、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にホームだよりを作成し、金銭出納報告とともに家族に送付している。登録者（家族）にインターネットでホームの様子を開示している。また日常の来訪時のほか、ケアプラン作成時にも家族に報告・説明を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の来訪時や運営推進会議でも意見をいただいている。玄関先に意見箱を設置したり、家族アンケートを頻繁に実施し、アンケート結果も家族に報告している。重要事項説明書に第三者の苦情処理機関を明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動がある場合は、十分な引継ぎ期間を設け、利用者への影響を防いでいる。職員の異動や離職をできるだけ最小限で抑えるよう努力している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修のほか、地域の4～5つのグループホームが合同で外部の講師を呼んで職員研修を定期的に行い、多くの職員が参加している。外部研修への参加は職員ごとの偏りがないように配慮されている。また研修内容をミーティングでお互い報告し周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がグループホーム管理者会議に参加しているほか、地域で共同開催される研修会で職員同士の交流も行なわれ、ネットワーク作りやサービスの質の向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者と面談を行ない、ホームを見学した上で入居を決定している。入居前に食事代を負担していただき、一泊体験利用を実施している。家族に相談しながら、出来るだけ早く馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらかた喜び哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの理念として「尊厳の尊重」を掲げ、日常の対等な立場を心がけている。畑仕事や、裁縫仕事を教えていただくなど、学んだり、支え合う関係が築けている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には家族に生活歴やフェイスシートを記入していただいている。そのほか日々の生活の中で、気づいたことをミーティングで話し合い、希望や意向を把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時や見直し時に評価表を家族に見ていただき、意見をいただきながら、ユニット全員の意見も聞いて、介護計画を作成し、再度家族の意見をいただいて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎にそれぞれの利用者の介護計画を見直している。また状況の変化があった場合も、その都度見直している。前回の評価をもとに家族やユニット全員の意見を聞いて介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問診療のほか、訪問理美容を利用している。通院や買物などの送迎もホームで行なっている。隣接する小規模多機能施設との合同行事を開催している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医・歯科医の提携医療機関が、それぞれ2週間に1度往診していただいている。そのほかのかかりつけ医への通院も可能である。居宅療養指導料をホームで負担し、家族の負担軽減につなげている。口腔ケアについて、特に必要性を重視し、力を入れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームではまだ看取りを行なったことはないが、重度化した場合の方針について指針を作成し、同意書を整備している。家族、医療機関、職員ともに方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを尊重し、言葉かけや対応に注意を払っている。個人情報の管理も行なっている。インターネットでのホームの様子の開示も登録者（家族）に限定している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの都合を優先することなく、利用者のペースに合わせた生活支援を行なっている。食事や入浴、起床、散歩など、利用者の体調や希望に合わせて支援している。		

札幌市北区 グループホームゆうあい

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者と一緒に楽しく会話し、食事しており、必要に応じて介助を行なっている。調理や片付けに利用者が参加することもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めて入浴しているが、希望があれば、それ以外の日でも入浴可能である。入浴の時間帯は希望に合わせている。また入浴日以外は足浴を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や裁縫などの作業のほか、遊びでは花札、囲碁、書道なども行なっている。誕生会、ピクニック、運動会、クリスマスといったホーム全体の行事のほか、外食やドライブなどのユニット毎のレクリエーションも行なわれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子の利用者も含めて日常的に散歩している。また月 1 回程度外食を企画し、外出している。特定受診科目で通院し、外出する機会も多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関の鍵をかけていない。玄関前に事務室があり、事務室の窓 2 面から玄関と道路までが見渡せるようになっている。		

札幌市北区 グループホームゆうあい

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防・避難の講習を受講しているが実践的な訓練の実施はこれからである。地域に対する災害時の協力の依頼についても、協力体制の構築までは至っていない。	○	災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できるような実践的な訓練の実施、地域の方々の協力がいただけるような働きかけ、災害時の備品の準備などの取り組みを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を記録している。利用者一人ひとりに合わせた食事が提供されている。献立は栄養バランスなどを考慮し、職員が作成しているが、管理栄養士などのチェックは受けていない。	○	事前に管理栄養士にチェックしてもらうのが望ましいが、事後であっても一定期間の献立について、書類や写真に記録して、管理栄養士に食事量や栄養バランスなどの指導・助言を受けることを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が広くゆったりしており、清潔に保たれている。窓も大きく日当たりがよい。また共用空間から各個室の入り口が見渡せる開放的な造りとなっている。温度や湿度にも配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、利用者の自由な馴染みのものが持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。畳をホーム側で用意し、利用している利用者もいる。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。